

[特集]

クリニック・ 在宅で診る血液疾患 できること, できないことを見直そう

企画：神田善伸

[Chapter 1]

さまざまなクリニック・在宅診療でできること, できないこと

- | | | |
|-----|-------------------------|------|
| 806 | 血液専門医がいるクリニック・いないクリニック | 由井俊輔 |
| 812 | 化学療法室・院内薬局・検査室を備えたクリニック | 太田健介 |
| 818 | 在宅診療クリニック | 大橋晃太 |

[Chapter 2]

クリニックでできる健康診断異常・初期徴候への対応

血液内科クリニックからのメッセージ

- | | | |
|-----|---|-----------|
| 827 | 貧血・赤血球減少 | 神山祐太郎 |
| 832 | 赤血球増多 | 杉浦 勇 |
| 838 | クリニックでできる血小板減少の診断と
専門施設に紹介するタイミング | 津田健司 |
| 843 | 血小板増多 | 翁 祖誠 ほか |
| 849 | 白血球減少 | 白鳥由実子 |
| 854 | 白血球増多
他医療機関や健診などで白血球増多を指摘され
血液内科のクリニックに紹介される疾患の鑑別 | 堀内俊克 |
| 859 | 2 系統以上の血算異常 | 中野伸亮 |
| 865 | クリニックで診るリンパ節腫脹 | 岡本充史 |
| 869 | 出血症状 | 渡邊 健・豊田茂雄 |

[Chapter 3]

クリニック・在宅診療でできる血液疾患の慢性期治療

専門施設からのメッセージ

- | | | |
|-----|---|------|
| 875 | 鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血 | 大西 康 |
| 879 | クリニック・在宅診療における再生不良性
貧血患者の管理 役割と連携の視点 | 小原 直 |
| 884 | 免疫性血小板減少症 | 加藤 恒 |

889	血友病	野上恵嗣
895	慢性骨髄性白血病	木村晋也
900	真性多血症・本態性血小板血症	杉本由香
904	骨髄異形成症候群	前田智也
910	骨髄腫	塚田信弘
915	リンパ腫 悪性リンパ腫の慢性期治療と今後の治療の展望	西山理沙・棟方 理
920	急性白血病治療後の長期観察	横山洋紀
923	造血細胞移植患者の 長期フォローにおけるクリニックの役割	森 有紀
[Chapter 4]		
クリニック・在宅診療での血液疾患診療の壁と対策		
927	クリニック・在宅診療での輸血の問題	赤坂浩司・西川彰則
930	在宅医療でのがん診療のいま	宮下直洋
934	血液疾患のクリニック・在宅での診療普及を 目指して 学会からの働きかけ	新井文子
[連載] みんなで読もう、腎臓内科の重要論文! 最新エビデンスの行間を読む		
	第3回 高張食塩水輸液は心不全患者の利尿薬反応性を改善するか? 低クロール血症の意義	坂口悠介 937
	医療の不確実性に向き合う 不明・複雑・変わりゆく病状。正解がわからないときにどう対応するか	
	第8回 ケース④: 背景疾患が一向に見つからない高体温症 内科医のための睡眠外来入門	徳増一樹 943
	CASE 13. 「持続気道陽圧(CPAP)療法は続けたほうがいいのでしょうか?」 イメージで捉える呼吸器疾患	立石知也 949
	第31回 抗ARS抗体症候群に伴う間質性肺疾患 「関節痛と筋肉痛があって、歩くと息切れします」	皿谷 健 955
	Focus On 市中感染症と薬剤耐性菌 WHO 優先病原体リスト(BPPL)から読み解く AMR 対策	山口哲央 963
[投稿]	臨床研究 Cameron 病変	山根建樹 971
	Photo Report 移植後の免疫不全患者において粟粒結核様の画像所見を呈した サイトメガロウイルス(CMV)肺炎の1例	松野真佑美 975
[記事]	最新の臨床WEB ~臨床雑誌「内科」出張版~ 自己免疫性溶血性貧血(AIHA)	811
[書評]	脳神経内科はじめました 問診力×神経診察×画像診断で95%以上診断できる!!	桑原 聡 825
	緩和ケアの現場で実践する 非がん患者のこころのケア入門	森田達也 873
	運動負荷試験・心臓リハビリテーション Q&A 150(改訂第3版)	野原隆司 909
	非結核性抗酸菌症診療 Up to Date	磯部 威 961
新刊書案内 837 寄稿規定 976 読者アンケート 977 バックナンバーのご案内 978		バックナンバー購入申込書/購読のご案内 980 次号特集予告 981 編集手帳 982

著者ならびに出版社は、本誌に記載されている内容について最新かつ正確であるよう最善の努力をしております。しかし、臨床検査、薬剤の情報、および治療法などは、医学の進歩や新しい知見により変わる場合があります。また、誌面の都合上、一部解説を省略させていただいている箇所もございます。実際の診療にあたっては、最新の添付文書などの情報を併せてご参照くださいますようお願いいたします。